

22. 期末レポート「地元を推す！」作成の注意

菊地暁 folklore.lecture@gmail.com

* 成績評価

- ・本講義の評価は、期末レポート(60 点満点)およびミニアンケート(4 点満点 × 10 回 = 40 点満点)によりおこなう。
- ・以下は生活史課題「おじいちゃん or おばあちゃんの生活史」提出済受講生のための課題です。

* 期末レポート課題「地元を推す！」

- ・地元の概要紹介(300 字程度)
- ・見るべきものの紹介(300 字程度 + 画像等)
- ・食べるべきものの紹介(300 字程度 + 画像等)
- ・オススメおみやげ紹介(300 字程度 + 画像)
- ・さらに地元を知りたい人のためのオススメコンテンツ(本、映画、アニメなど)紹介(300 字程度 + 書影等の画像)

締切 2027 年 1 月 13 日(金)まで下記 QR コードからフォームに提出



* 注意

- ・「地元」は自分と深いつながりを感じる地域。生活体験が長い場所が望ましい。未踏地は不可。
- ・地域は狭いほうが良い: 国 > 都道府県 > 市町村 > 市町村内の地域
- ・オススメコンテンツは、当該地域の特性を扱うものであれば、フィクションであってもかまわない。
- ・レポートは提出者に公開する予定である。

* 評価の目安

- ・既存のガイドブック等にはないユニークな観点・情報
- ・内容・表現の魅力／典拠の適正さ
- ・(極論すると)地元の魅力が読者に伝われば良い

* 参考

- ・デイリーポータルZ「地元から地元へ荷物が飛び交う！ 仕送りリレー」(2021 年公開記事)
- ・ハンケイ500m
- ・D&DEPARTMENT「デザイン観光ガイドブック d design travel」シリーズ

地元を推す！北海道札幌市西区発寒

by AK



発寒駅(改札画像 net より)

「発寒」は「はっさむ」と読む。アイヌ語でムクリを指すハチヤムという語に漢字を当てた地名だ。だからといってアイヌにまつわる史跡があるわけでもない。ポケモンの「ハッサム」も無関係。

現在は北西部の「鉄鋼団地」と呼ばれる中小工場エリアを除くと、純然たる住宅街で、人口5万人程度。西区の一部で、発寒が区として独立した際には、札幌市は「東南北白発中」の頭文字の区が揃い、麻省好きに愛される街になるはずなのだが、その日が来るのが定かでない。

JR 函館本線の発寒駅、発寒中央駅があり、札幌市営地下鉄の発寒南駅があり、札幌自動車道が通過するなど、交通インフラはそこそこ充実しているが、政令指定都市札幌としては特に珍しいことではなく、域内に交通の要衝があるわけでもない。

あらためて書いてみると、とりたてて特徴のない地域だ。

〈見るべきもの〉

とりたてて特徴のない地域なので、見るべきものはあまりない。北海道開拓の歴史を伝える琴似屯田兵舎(ポロ屋である)は、発寒川(たまにサケが上ってくる)を超えた隣町の琴似だし、インバウンド観光客に大人気の「白い恋人」の工場兼見学施設「白い恋人パーク」(コンサドーレ札幌の練習グラウンドも

ある)も隣町の西野。知る人ぞ知る昭和アイテム博物館「レトロスペース 坂倉館」も自転車道で10分程度だが、琴似よりさらに先の二十四軒。発寒域内には目ぼしいスポットはなく、各種観光情報サイトもお手上げの様子。

強いてあげると、発寒小学校横にある「永田休蔵之碑」。安政4(1857)年、幕臣・永田休蔵に準いられて入植した二十戸弱が発寒の始まりである。大正14(1925)年建碑の碑文を揮毫したのは、北海道帝国大学初代総長・佐藤昌介のこと。開村が幕末にさかのぼるのは、北海道和人の歴史では最初期のことだ。



永田休蔵之碑 (HP「発寒べんり帳」より)

〈食べるべきもの〉

スペシャルな郷土料理があるわけではないが、食べ物はフツーに美味しい。「料はあっても理はない」、材料は良いが調理がユルい、と口さがない知人が北海道料理を評したが、材料が良いのだからマズイことはない。新鮮ではない魚を食べるために鯖寿司やら鰯蕎麦やらの調理技術を発展させた京都などとは、前提が違う。

なかでも、回転寿司の美味しさ、値段当たりの満足度が段違いだ。なので、帰省する度に発寒イオンモールの回転寿司チェーン「なごやか亭」に足を運ぶ。「こぼれいくら」なるメニューのオーダーが入ると、店員が太鼓を叩いて囃子声を上げるという騒がしい店だが、出てくる寿司は総じてコスバが良い。私のお気に入り「炙りえんがわ焦がし醤油」(一皿300円)だと思っていたが、世の常として値上がりしている。美味しい。もう一皿食べたい。これを食べるために帰省したい。とはいえ、

回転寿司の常として、この「えんがわ」が何の魚なのかは定かではない。



炙りえんがわ焦がし醤油 (HP「Moula HOKKAIDO」より)

〈オススメおみやげ〉

これまた特別なものは何もない。特別なものは何もないが、田舎の常としてショップ・モールの存在は絶大であり、発寒イオンモールに行けば、たいいの北海道土産を買うことができる。柳月もMORMOTOもあるし、じゃがポックルも買える。重宝しているのは、六花亭の直営店。十勝の野草を描いたパッケージ(これを手がけた画家・坂本直行の大叔父は坂本龍馬)で有名な六花亭は、道内の土産屋ならどこでも買うことができるが、幕の内的なお菓子セットではなく単品をバラで買えるのが直営店のメリットだ。マルセイバターサンドや大平原が有名だが、私のイチオシは百歳【ももとせ】。アーモンドのストロベリー生地に甘酸っぱいジャムを添えたパイ菓子(税抜き170円)だ。美味しい。また買いたい。ネット通販で買えないこともないのだが、そうすると歯止めが効かなくなりそうなので、今のところ、帰省のお楽しみにとどめている。



百歳(六花亭 HP より)

〈オススメコンテンツ〉

くどいようだが、とりたてて特徴のない地域なので、この地を描いた固有の作品は、ほぼない。市町村史のたくいにも断片的な言及があるばかり。国会図書館で検索しても、北海道札幌土木現業所「琴似発寒川の砂防」(1978)ほか類書1冊がヒットするのみ。あとグーグルブックスで検索したところ、漫画家・清野とおる(『増巻』連載中)のエッセイ漫画『全っつっつ然知らない街を歩いてみたものの』第1巻(大洋図書、2013)に「発寒中央駅(前後編)」があった。特に目ぼしいモノはなく、猛吹雪だが、寿司は美味かった、という内容だ。

なので、札幌の雰囲気伝える作品をあげると、旭川市出身・札幌市在住の漫画家・佐々木倫子による『動物のお医者さん』(白泉社、1988-1993)が一番手。H 大学獣医学部に学ぶハムテル(推定西区在住)を主人公に、漆原教授や愛沼先輩、シベリアンハスキーのチヨビといった奇々怪々な人間と動物たちが繰り広げる青春群像劇はストリートに笑えるが、あらためて読み直すと、1980年代の大学生生活の空気を伝える良作でもある。



佐々木倫子『動物のお医者さん』(白泉社文庫)